

(別紙様式)  
令和 6 年度 学校自己評価システムシート ( 県立三郷北高等学校 )

(A 3 判横)

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を3本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校
--------	--

重点目標	1 学習習慣の確立と授業改善による学力向上を図り、進路希望を実現させる。 2 集団活動とおして共生社会の実現を目指し、規範意識を持った社会に信頼される人材を育成する。 3 インクルーシブ教育を充実させ、分校とともに地域に開かれた学校づくりをさらに推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日は、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				6 年 度 評 価 ( 1 月 1 0 日 現 在 )		
年 度 目 標				6 年 度 評 価 ( 1 月 1 0 日 現 在 )		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<p>【現状】 授業改善の取組により、生徒の学習意識は高まっているが、家庭学習時間に変化は見られない。 進路について高い関心があるが、一方で現実への対応ができていない。 ICT機器の活用は主にプロジェクターを使用した授業であり、Google Workspace等のソフトを活用に至っていない。</p> <p>【課題】 第一志望を譲らない進路指導をとおり、学習習慣を確立し自己管理能力を育成する。 Google Workspace等を活用し、校務のスムーズ化・効率化を図る。 校内BYODを有効的に活用し、タブレット端末を活用した授業を実施する。</p>	○進路補習の開催、参加者数が増加したか、欠点保有生徒が減少した結果、それに伴う家庭学習時間が増加したか。	①進路補習を長期休業中及び平日にも行い、第一志望を譲らない指導を計画的に行なう。 ②定期テスト実施前に学年、教科と連携して指名補習を行い、欠点を減少させる(通年) ③模試を効果的に行い、大学・短大希望の生徒の意識を醸成する。	①大学短大進学希望の生徒に必要な模試、学習を支援できたか ①進路補習の受講生徒が5%程度増加したか。(昨年度比) ②年間を通じて欠点保有者が減少したか。 ②ベネッセの回答において家庭学習時間が5%程度増加したか。 ③模試の受検者数。	①必要な模試を生徒に案内できた。また、学習の支援を適切に行った。 ①夏季(220%)増(昨年度比+30名、合計55名)、平時で136%増(昨年度比+5名、合計30名) ②欠点保有者は2学期末時点で増加していった。 ②2年生が9%増(昨年度比+3分、合計36分)、1年生が8%増(昨年度比+3分、合計43分) ③模試の受検者数は、総合カテストは2年生は増加(昨年度比+4名、合計20名)、1年生は減少(昨年度比-46名、合計5名)。ただし、2年生の実力診断テスト受検者が延べ254名。河合塾の外部模試は延べ29名程度が受検している(昨年度比+10名)	A
		○ICT等を活用して大学進学を見通した授業等を実施し、教科ごとに研究協議できたか。	①通年において中堅大学進学を意識した授業等を実施し、教科で研究協議をする。 ②スタディサプリの課題配信を組織的に実行し、外部コンテンツを活用した授業改善をする。	①教科ごとに研究協議できたか。 ②大型連休や長期休業期間等にスタディサプリの課題を配信できたか。 ③スタディサプリの動画配信時間が増加したか(昨年度比)	①学び合い週間においてICTを活用した授業を公開し、教科ごとの研究協議、全体の研究協議を実施した。 ②スタディサプリの課題配信ができた。来年度に向けて、課題配信の時期と内容について全職員で情報共有を図った。 ③スタディサプリについては全国平均を超えているが多い。特に、2年生については他校との比較で120～130%をマークしている。	①ICTを使用することが目的にならないように、効果を検証しながら推進する。 ②スタディサプリの課題配信を組織的に実施し、提供会社と連携して進め、データの解析を進め、2学期にスタディサプリの活用率が落ちる傾向にある。また、3年生については他校との比較で120～130%をマークしている。
2	<p>【現状】 委員会活動は以前の状態に近づいてきている。全体的に生徒は落ち着いたが、遅刻者数及び遅刻回数も減少しない。 相手のことを考えられない行動がみられる。また、自転車マナーや校外での行動についての苦情がある。</p> <p>【課題】 遅刻者数の減少に向けて教職員一人ひとりで対策に取り組む。 生徒の自己決定力を育てる委員会運営を行う。規範意識を醸成し、他者への思いやりを持ち、自己管理能力を育成する。</p>	○遅刻者数が減少したか、校外での行動や自転車マナーへの苦情が減少したか。	①遅刻者への事後指導を学校全体で組織的に実施する。 ②交通安全講習(自転車運転マナー)を全校生徒に行い、交通マナー指導を行うとともにヘルメットの着用を促す。	①遅刻件数年間1000件以下となったか。 ①期の上り指導を組織的に行ったか。 ②地域警察と連携し、自転車マナー向上や交通安全に関する情報を発信できたか。(前年比) ②年度当初に交通安全指導を実施したか。	①遅刻件数は11月末時点で2000件を超えてしまった。 ①立哨指導を組織的に行った。 ②自転車マナーに関する地域からの情報提供の内容を全職員で情報共有し、生徒へ啓発指導を行った。 ③2月当初に交通安全指導を実施した。しかし、自動車との接触事故が10件程度、報告されている。	B
		○自ら考え、自己決定できるよう助言し、生徒の規範意識を醸成し自己管理能力を育成できたか。	①生徒が考えて自らの力で運営する専門委員会を設定し、しみの実祭や感恩祭を成功させる。 ②全校集会、学年集会やHR活動を通じて、規範意識や学校への誇りを高める指導を行う。	①委員会活動では思考力を刺激する内容を設定することで、行事等を成功させることができたか。 ②全校集会等(年8回)、学年集会(年4回)及びHRでの講演や講話を実施できたか。	①体育祭やしみの実祭、防災訓練など、委員会が活発に活動して行事を運営した。しかし、思考力を刺激する内容を設定することはできなかった。 ②集会を通じて学校への所属意識や規範意識を高める講話を実施した。また、SHRやLHR等で担任や学年から重ねて話をした。	①引き続き、全員がBYODに接続できるように支援する。 ②学校・学年で行うアンケートや調査について積極的に端末を使用する。授業での端末使用率を上げていく。 ③職員のスキルアップを図る研修会を実施する。
3	<p>【現状】 生徒が活躍する説明会を通して生徒募集を行い、志願倍率が1.06倍であった。三郷、八潮、吉川3市からの入学者数は80%以上を確保した。 国際交流活動を数年ぶりに実施できた。分校開校による校内の調整を進めた。 学校行事を中心に保護者が来校できる機会を可能な限り設定した。</p> <p>【課題】 ホームページでの情報拡散・生徒の地域活動を活用した生徒募集を行う。派遣を中心とした国際交流活動を継続する。 分校と協働し学校行事を実施し、地域に開かれた学校づくりを行い、保護者の満足度を向上させる。</p>	○本校の魅力や中学生・保護者に伝えるため、生徒の活躍を積極的に情報発信することで志願者数を増やすことができたか。	①国際交流事業など本校の魅力やPR、学校説明会や地区の説明会等に参加する。 ②生徒の活躍が見られる学校説明会を行う。 ③学校ホームページを積極的に更新し、魅力を発信する。 ④公開授業について近隣の中学校や塾等に働きかけ、本校の様子を知ってもらう。	①国際交流活動を中学生と保護者にアピールできたか。 ②生徒が活躍する広報活動を実施し、年5回の学校説明会が定員を満了したか。 ③学校ホームページのトップページの更新回数及びカウンター数。 ④公開授業における中学生等の参加者数及びアンケートでの評価。	①短期海外留学プログラムの掲示物を作成し、来校した中学生と保護者が見られる場所に設置した。結果、本校の保護者にも見てもらえた。 ②生徒が活躍する広報活動を実施し、年5回の学校説明会が定員を満了した。放送部の生徒が全体の司会、学校の様子や海外短期留学プログラムの報告を生徒が行うなど、生徒が活躍できる場を創出した。 ③学校ホームページのトップページを10回更新(1来現在、昨年度比+20)、カウンター数を確認することができなかった。年に数回、各部活動のホームページの更新確認を一斉に実施した。 ④14組の中学生と保護者が公開授業に参加、アンケートは概ね良かった。	A
		○PTA、後援会等との連携を密にし、支援もお願いしながら分校と共同実施する学校行事等を実施できたか。	①PTA、後援会と連携を図る。 ②分校と本校の職員との交流を通して共同実施する学校行事の準備等を行い、生徒同士の交流につなげる。 ③後援会と連携して、生徒の活動を活性化させる事業を計画、実施する。	①行事ごとにPTA、後援会と密に連携し、保護者の来校機会を設定できたか。 ②学校職員と本校職員との共同研修会を通して交流を深めたか。 ③分校行事と本校生徒が交流し、学校行事等を実施できたか。 ③生徒の活動を活性化するため、外部施設使用について後援会による支援を実施できたか。	①行事等を含め、連携を密にしていく。また、外部講師による講演会等についても保護者に案内し、来校機会を創出する。 ②合同研修会を2回実施し、ディスカッションを通じて交流を深めた。 ③学校行事を通じて、三北生と分校生が交流できた。ポッチャ大会を修学旅行期間中に実施した。 ③後援会による支援を実施できた。	①行事等を含め、連携を密にしていく。また、外部講師による講演会等についても保護者に案内し、来校機会を創出する。 ②来年度も合同研修会を実施する。 ③学校行事を通じて、三北生と分校生の交流を推進する。また、生徒会同士の交流を行いたい。 ④様々な講演会についても分校生の参加を検討する。 ④外部施設を利用する部活動について、引き続き、後援会からの支援をいただく。

学 校 関 係 者 評 価	
実 施 日 令 和 7 年 2 月 7 日	
学 校 関 係 者 からの 意 見 ・ 要 望 ・ 評 価 等	
○生徒の希望を実現させる進路指導を継続してほしい。 ○来年度以降、補習に参加する生徒を増やすためには工夫が必要だろう。 ○学校全体で進路指導に向けた雰囲気づくりをする必要がある。 ○全体的に落ち着いた授業に取り組んでいる。生徒同士の対話や活動がある授業展開で良い。 ○ICT活用が一般的になってきたが、効果的な使用方法を研究してほしい。 ○来年度は3年生までタブレットを持つことになる。生徒が興味を持って授業に取り組めるように活用場面を増やしてほしい。 ○スタディサプリを組織的に活用して、自学ができる環境を整える必要がある。 ○家庭学習には家庭の理解が必要だろう。家庭への働きかけが難しい。	○職員研修会を実施して、職員間のスキルの差をなくしてほしい。 ○学校全体のアンケートはフォームを使うなどして、職員の負担軽減を図りたい。 ○ホームページは今年度も継続してほしい。
○同じ生徒が複数回、繰り返し遅刻しているようなので、これまで以上に家庭との連携を密にしてほしい。 ○遅刻していない生徒に遅刻しない理由や遅刻しないために取り組んでいることをアウトプットしてもらい、見える化して生徒全員で供したらどうか。 ○自転車マナーを子供のことから積み重ねて、引き続き指導して、安全・安心な学校づくりを推進してほしい。	○「こうしたい」と思っている生徒を増やして、より主体的に学校行事等に取り組んでほしい。 ○やる人が周りを巻き込んで、一緒に頑張ってくれる仲間を増やしてほしい。
○短期海外留学プログラムの特色だと思う。生徒募集においてもっとPRしたほうがよい。 ○生徒の姿が見える学校説明会なども好感が持てる。 ○学校説明会や学校行事など、生徒が活躍する場を創出してほしい。 ○学校ホームページは日々の様子がわかってよいが、携帯版をもう少し見やすくしてほしい。	○分校との連携ができてよかった。来年度以降もさらに連携を深め、インクルーシブ教育を充実させてほしい。 ○分校との交流について、生徒だけでなく、教職員の交流も進めたい。
○PTA後援会と情報共有をして連携を深め、生徒が充実した学校生活を送れるようにしてほしい。 ○保護者が来校できる機会を昨年度より創出出来た。来年度も継続してほしい。	